



『ともちゃんとうし』

市川 朔久子 // 作 おくやま ゆか // 絵
岩崎書店

学校に行きたくない「ともちゃん」が泣きながら学校への道を歩いていると、角のところに大きな牛！ともちゃんが背中に乗ると、のっしり、ゆっくり歩き出しました。野原で一緒に楽しく遊んでいると、向こうから知らないおじさんが「トモー」と声をかけてきて…。女の子と牛の、ほっこりとした1日を描いた笑顔になれるお話です。

『ひつじのぼうし』

緒方 伶香 // 文 イラスト 原 一男 // 写真
誠文堂新光社

表紙に描かれているのは、赤い帽子をかぶった子どもと羊がたわむれる様子。羊の毛を刈り取り、洗い、それを束ねて毛糸にし、帽子を作るまでが、わかりやすい文章と写真で紹介されている写真絵本です。

本を読んでいるうちに「もこもこ」「ふわふわ」感に包まれて、なごやかな気持ちになります。かわいい羊から帽子ができる、ものづくりの過程も楽しめます。



『あらしの島で』

ブライアン・フロッカ // 文 シドニー・スミス // 絵
原田 勝 // 訳 偕成社



兄と妹が暮らす島に、嵐がやってきます。二人は手をつなぎ、引き寄せられるかのように海へ向かいました。岩に打ち付ける波、強くなる雨と風、誰もいない公園に雷が鳴り、普段と違う島の風景に、幼い兄妹は圧倒されます。

自然の厳しさが、力強い絵によって表現され、まるで本当に嵐の中を走っているような、緊張感と情景が味わえます。

図書館おすすめブックリスト

2026年5月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで フル充電!!

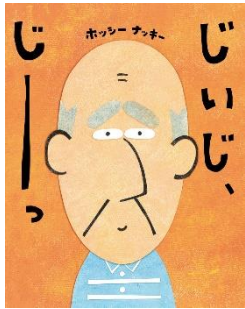
No.33 幼児向け

『かけています』

市原 淳 // 作
世界文化社



コックさんがお鍋を火に「かけています」。そして、キッチンタイマーをかけ、音楽をかけ、ソースをかけ、ドアに鍵をかけ…。同じ「かけています」という言葉でも、たくさんの意味があることがわかります。親子で声に出して読みたい、クスッと笑える言葉遊び絵本です。シリーズに『とっています』もあります。



『じいじ、じーっ』

ホッシー ナッキー // 作 絵
ポプラ社

歩きはじめた「ぼく」と、孫を見守る「じいじ」。階段をのぼったり、すべり台をしたり、好奇心いっぱいの「ぼく」はちっともじっとしていません。ハラハラしながらも手の届く距離で「じーっ」と見守る表情から、言葉はなくても「じいじ愛」が伝わってきます。家の中では「ぼく」が「じいじ」を見つめる一コマも。

二人で過ごす日常がいとおしくなる絵本です。



『ここは、ようかいチビッコえん』

ヒュードロ・タウンのようかいたち
富安 陽子 // 文 大島 妙子 // 絵
福音館書店

ここはヒュードロ・タウンにある、“ようかいチビッコえん”。今日も「ひとつめごぞう」や「ろくろっくび」など、いろんな妖怪の子どもが元気に登園してきます。朝のお返事、お歌に散歩。時々ケンカになるのは人間と同じですが、化けくらべをしたり空を飛んだりするのは、妖怪のこども園ならではの楽しみですね。

春に入園したばかりのお子さんにおすすめです。



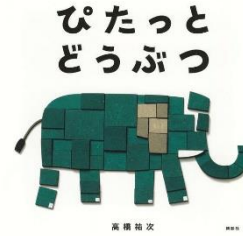
『おひげピンピン』

しもかわら ゆみ // 作
講談社

「ねこさんのおかおのピンピン、なんですか？」それはおひげです。次はいぬさん、ねずみさんと、いろんな動物たちのおひげがテンポよく登場。いぬの短いひげ、やぎの立派なひげ…と、特徴をよくとらえたイラストに、動物たちの個性があふれ出ています。「ピンピン」「ツンツン」のオノマトペも愉快的な絵本です。

『ぴたっとどうぶつ』

高橋 祐次 // 作
講談社



「しゅうごう！」というかけ声で、バラバラになったパズルが集まると、ぞう、かめ、うまなどの動物に「ぴたっと」大変身します。どんな動物ができあがるのか、パズルが動物のどのあたりになるのかを想像したり、動物の鳴き声や足音のオノマトペを口に出してリズムを楽しんだりすることができる絵本です。



『わたしのちいさいいきものえん』

大島 加奈子 // 作
福音館書店

キャベツにいたアオムシを飼いたい！そんなときは、台所の空き容器で飼育かごを作ってみましょう。この本では、エサのやり方やふんの始末など、生き物のお世話の方法がわかりやすく説明されているので、初めてでも大丈夫。ダンゴムシ、カタツムリ、オタマジャクシなどの身近な生き物であたなの「いきものえん」を作ってみませんか？



『くまのおやこのきょうは さかなつり』

エイミー・ヘスト // 文 エリン・E・ステッド // 絵
青山 南 // 訳 光村教育図書

朝起きて、ふと魚釣りに行きたくなったお父さんぐまと子ぐま。準備を整え、いざ出発！あれれ？ なにか忘れていたような…。

魚釣りを通した親子の日常が穏やかに描かれており、二人一緒にゆったりと過ごす時間が、大切にかけがえのないものであることが伝わってきます。親子で一緒に楽しめるお話です。